

武漢事務所週刊ニュース（2015年9月19日～9月25日）

省外からの投資、台湾が2番目

9月19日 楚天都市報

1988年、湖北省に台湾系企業が初進出してから、今では2514社、投資意向額135億ドル、投資実額は84億ドルに達している。

フォックスコンは毎年新しくラインを増やしており、ワンワングループは仙桃工場を1工場から8工場へ伸ばしている。統一、康师傅、大润发は周辺への拡張を急いでおり、台玻集团、沪士電子、健鼎科技等は続々と増資増産をしている。

武漢経済技術開発区に台湾車電子産業パークを設立

9月24日 湖北・台湾ネット

2015年湖北・武漢台湾ウィークトランジスター及び車電子製品展示会が昨日開催され、武漢経済技術開発区の責任者が台湾車電子産業パークの設立を発表した。この産業パークは漢南車部品産業パークの中に設立し、敷地面積が347,350㎡。すでに産業パークのインフラが出来上がり、現在、2社の企業が入り、6社の台湾の車電子生産及びサービス企業が合わせて進駐することについて商談している。

14社の台湾車電子トランジスター企業の代表は東風汽車、東風

本田、上海 GM 汽車、東風揚子江などの組立及び部品生産企業と多くのプロジェクトの提携意向を結んだ。

台湾電電公会車電子委員会主任委員、峰鼎電子株式会社の董事長遊文光によると、社債電子機器は期待できる“次の世代の産業”で、未来の車には 500 以上の電子チップを使用し、一連の車載電子機器製品が車と運転のコンセプトを変えることになる。

専門家の分析によると、ここ 10 年来、車産業の 70%の技術革新は車載電子機器技術及びその製品の開発、応用による。車載電子技術は車産業の発展を進める中心的な原動力となる。